第6期第1回福岡市市民公益活動推進審議会

- **1** 開催日時 平成28年11月17日 (木) 15:00~16:30
- **2 場** 所 福岡市役所 15階 1505会議室
- 3 議 題 【報告】福岡市NPO活動推進補助金制度について

【報告】NPO・ボランティア交流センター移転後の運営について

4 出席者 (出席委員 7 名)

森田委員,野口委員,辻委員,空委員,稲田委員,細川委員,井上委員(欠席委員3名)

大庭委員, 楠下委員, 徳成委員

- 5 傍聴者数 なし
- 6 議事概要
 - 〇 開会

○ 会長,副会長の選出について

福岡市市民公益活動推進審議会運営要綱の規定に基づき,委員の互選により,会長に森田委員,副会長に野口委員を選出した。

〇 福岡市NPO活動推進補助金制度について(報告)

【事務局】「福岡市NPO活動推進補助金制度について(資料1)」説明。

- 【会 長】各委員のご活動の観点からご意見、ご質問を。
- 【委 員】日本ではあまり寄付意識が定着しないと言われている。個人の寄付は伸び悩みがちで、それはやむを得ない気がするが、企業からの寄付の中で、この自動販売機による寄付というのは効果的と思う。納付書やクレジットカードなどで寄付するよりも、つり銭を寄付するというような、「ついでに」という感覚の方が寄付しやすいという結果も出ている。非常に取り組みやすい、市民としてもやりやすい寄付と思うので、この方向性を伸ばしていくとよいと思う。成果についても伝えることができれば、自動販売機で寄付することにより、社会貢献ができているという市民の自立意識にも繋がるのではないか。
- 【事務局】アンケート結果を見ても、「寄付する気持ちはあるがきっかけがない」という方の割合が多い。力を入れてやるというよりも何かのついでにといったツールが増えていくことが効果的と考える。

周知の面でいくと、現在「補助事業活動報告書」を毎年作成しており、中身を充 実させる工夫をしている。ホームページにも掲載し、寄付者へも送付させていた だいているので、次に繋がればと考えている。

- 【委員】寄付付自動販売機は何台あるのか。
- 【事務局】現在15台。あすみんにも1台設置しており、少しずつではあるが増えている。

- 【委員】活動報告書等を自動販売機に据え置くなど、「こんなことに使われています」ということを見ることができればいいと思う。
- 【事務局】視察等であすみんをご案内する際, 寄付付自動販売機をPRするようにしているが, みなさん興味深く聞いておられる。よい取り組みになっていると思う。
- 【委員】平成28年度の自動販売機寄付受入状況について、資料1を見ると3件となっているが、これは集計の途中だから少ないということか。
- 【事務局】設置台数は15台であるが、設置企業・団体数としては11社。資料の件数は寄付金の受入件数である。
- 【委員】では、平成28年度末にはこの受入件数が増えるということか。
- 【事務局】そのとおりである。
- 【委員】補助対象事業は約20分野あるが、交付実績を分野ごとに集計してはどうか。福岡市のNPOの底上げを考えると、データの集め方、整理の仕方というのは大事である。これまでに交付実績が少ない分野など。
- 【事務局】分野別集計は可能だと思うので、検証に向けて分析する。
- 【委 員】寄付付自動販売機の設置を促す活動を実施しているか。
- 【事務局】申し出があれば話をさせていただくが、こちらから具体的な営業活動は行っていない。
- 【委員】申し出以前にこういうものがあることを知らない可能性があるので、発信をうまくやっていくことが大切である。自動販売機設置会社等にお願いし、自動販売機 を置くときに勧めてもらうのも効果的と考える。
- 【事務局】検討する。
- 【委員】自動販売機は公共の場所にも置かれていると思うが。
- 【事務局】公共の場所への設置は、原則財政局で公募を行っているので、寄付付自動販売機 は、現状では民間企業等に協力をいただき置いていただいているところである。
- 【委員】企業には寄付をしようという意識が高いところも多いが、どうしたらこの自動販売機を置けるかなど、条件面がわからないと勧めようがない。「こういうものがある」と伝えることはできるが、コスト的にどうかという情報をもっていないので。
 - 寄付付自動販売機はすごく広がっていくと思う。

- 【委員】中小企業が設置している自動販売機は、オーナーや社長が全ての権限を持っている場合もあるので、そこで承認をもらえれば交換できる。
- 【委員】市が直接営業していくのは難しいかもしれないが、広報をするすべを我々が知っていると相当数伸びるのではないか。
- 【事務局】既存の自動販売機を置き換えてもらうというのは、なかなか難しい面もあるが、 どういった形で広げることができるか検討していく。
- 【委員】入れ歯とアクセサリーの寄付というものがあるが、公民館等でアピールしてはど うか。高齢者や女性の方がアクセサリーを扱いそうな気がするので。
- 【委員】補助金を受けて、事業を開始する団体は毎年10団体程度のようだが、申請団体はどれくらいか。補助団体は10団体に絞っているのか。
- 【事務局】審査をした結果だが、申請団体数と決定団体数はほぼ同数である。平成28年度は11団体申請があって10団体補助決定をしている。
- 【委 員】補助回数を3回までとしたのはどういう理由か。
- 【事務局】行政から補助金を出し続けるのではなく、NPO法人が自立して事業を継続していけるような仕組みが、長い目で見ればNPOの支援となる。3年までは支援を行うが、あとは自立してがんばっていただきたいという趣旨である。
- 【委 員】3回目以降も継続したいという要望はないのか。
- 【事務局】平成24年度から回数制限として決定しており、特に要望はない。
- 【委員】4年目からいきなり0になると、うまくいっていた事業がうまくいかなくなることもあるのではないか。制限するにしても3年目は補助率を落としたり、上限額を設けるなど検討したことがあるのかと思ったが。
- 【事務局】NPOの資金面は課題であり、団体運営の健全化など継続した様々な支援を行っている。補助金のほか、ファンドレイジングなど新しい手法も紹介しながら、総合的にバックアップしていきたいと考えている。
- NPO・ボランティア交流センター移転後の運営について(報告)
 - 【会 長】各委員のご活動の観点からご意見、ご質問を。
 - 【委 員】セミナールームの稼働率について、平成28年度は記載されているが、過去の データはないのか。
 - 【事務局】稼働率のカウント方法が平成27年度と異なるため、比較にならないと考え、資料には記載していない。

平成27年度のセミナールームの稼働率は約94%。従来、セミナールームを1つの団体が使えば「100%」とカウントをしていたが、移転後はセミナールームを3分割し、また、1日を3コマに分けてカウントしている。利用者は、土日や夜間が多く、人気の講座では、セミナールームに入りきれず、ミーティングスペースで立ったまま参加された方もおられた。

- 【委員】カウント方法が違うとのことだが、情報としては把握しておきたい。
- 【委員】資料2の利用登録数は個人が平成28年度に新たに426登録したという理解でよいか。
- 【事務局】これは登録団体数である。
- 【委員】団体が新たに426登録したということか。
- 【事務局】新たに登録いただいた団体数である。個人の利用については登録制度をやめ、情報コーナーについては自由に使っていただく形にしている。
- 【委員】相談数で、平成28年10月末の来館による相談数は、平成27年10月末時点より増えており、メールも若干増えているようだが、電話が減っているということか。
- 【事務局】相談数についても、たとえば、ホームページ等による情報発信に力を入れたことによって、問い合わせや質問、相談等が若干減っている可能性もあり、原因が判断しづらい。相談内容等、細かい分析が必要と思う。場所がかわって若い世代の利用が増えていると感じるし、フリースペースでの活動も活発に行われており、そういう点ではよくなったと考えている。
- 【委 員】利用者数は約1.4倍になっており、よかったと感じている。あすみんは場所を 提供するための建物ではあるが、相談機能も重要と認識しており、電話による相 談数が減った要因などは気になるのでさらに分析を。
- 【委 員】利用者に対してアンケートを行っているか。
- 【事務局】毎年アンケートを実施しており、現在準備しているところである。あすみんでは、 イベント毎に利用者アンケートを実施している。
- 【委員】移転後でもあるので、「使いづらい」など、利用上での意見等の把握を。
- 【事務局】移転後半年が経過し、利用者の意見を踏まえて見直しを行っていく必要があると 思うので、利用者意見は聞いていきたいと考えている。

〇 市民公益活動全般に関して

- 【会 長】市民公益活動の全般に関して、各委員のご活動の観点からご意見、ご質問を。
- 【委員】資料「市民公益活動の推進にかかる施策について答申」の中の、アンケート結果を見ると、基金制度を「知らない」が93%、補助事業を「知っていた」が39%、「知らなかった」が57%となっている。もう少し周知を図る必要があるのではないか。また、あすみんのハード面は出来上がったが、違う視点で、あすみんがあることによる効果というか、その辺の調査は行わないのか。
- 【事務局】今回,登録団体等へのアンケートを実施するので,その中で場所の提供だけではなく,相談機能や,求める機能などを把握したいと考えるが,何が成果なのかということもある。単なる場所の提供ではなく,NPOの活動が活性化し,特に地域や企業等との「共創」という形を打ち出していく中で,様々な事業主体がそれぞれの違いを乗り越えながら,社会課題の解決をしていくことは非常に大事だと思う。そういうことを検討できるように調査等を行っていきたいと思う。
- 【委員】あすみんの利用者は初期のNPO等のような気もするが、独自に事務所があったり、 大きな団体等はあすみんを利用していないのか。
- 【事務局】立地がいいので,会合,セミナー等の際,利用されている場合もあると考えている。
- 【委 員】資料にNPOの基盤強化というのがあるが、あすみんが主体で実施しているのか。
- 【事務局】あすみんの事業として、また市民公益活動推進課としても実施している。
- 【委員】今までに何回実施しているか。参加者数の変化等は把握しているか。
- 【事務局】NPO運営基盤強化講座を平成27年度に9回開催し、参加者は214名である。平成26年度も同様に実施しており、平成26年度は7回開催で参加者は155名である。平成28年度も実施予定である。
- 【委員】参加者がきちんとNPO法人を立ち上げて、動いて、拡大していくなどということは どうか。活動分野などの調査と合わせて、政令市等との比較により、本市の傾向や特 徴が見え、施策の方向性や力の入れどころが見えてくるのではないか。
- 【事務局】ハード面では今回,他都市に負けないように取り組んだ。ソフト面についても他都市 に負けないような事業が展開できるよう,いろいろと調査を行っていきたい。
- 【委員】NPO法人入門講座の参加者はどれくらいか。
- 【事務局】平成27年度に3回の開催で51名の参加者。平成26年度は6回の開催で114名の参加者である。
- 【委員】延べ人数か。実人数か。

- 【事務局】延べ人数である。
- 【委員】平成27年度は減っている。開催回数が半分になっているからか。
- 【事務局】そのとおりである。平成28年度は新たに「専門相談」を設け、基盤強化も含め様々な相談を受けており、NPOへの支援の手段は手厚くなっている。
- 【委員】あすみんノートはどこで配布しているのか。
- 【事務局】あすみん,市民公益活動推進課の窓口はもちろん,市役所1階の情報プラザや公民館, 区役所に配架し,ホームページにも掲載している。 ホームページもモバイル版を作っており、SNSは効力があるので,紙媒体だけでは なくウェブ媒体による広報にも力を入れていきたい。
- 【委 員】あすみんノートは、ぱっと見るとなにかわからないのではないか。大きく「あすみん」とロゴが入っているが、キャッチフレーズがない。「福岡市NPO・ボランティア交流センター」という正式名称は堅苦しいが、「あすみん」を知っている人にはよくても、知らない人には伝わらない。「あすみん」を知っている前提でつくられているようである。
- 【委員】中身は面白いと思うのでもったいない。年に何回発行しているのか。
- 【事務局】発行はこれまで年2回だったのを、平成28年度から4回としている。確かに見ていただくことが大事なので、デザイン等の工夫も含めあすみんと協議する。

〇 閉会